

平成28年度「高校生等防災教育基礎講座」実施状況

1. 実施概要

平成28年度は、県立高等学校9校、私立高等学校2校及び特別支援学校1校の計12校で実施しました。

内容は、防災に関する講演（講師派遣）を基本とし、加えて模擬体験を実施しました。



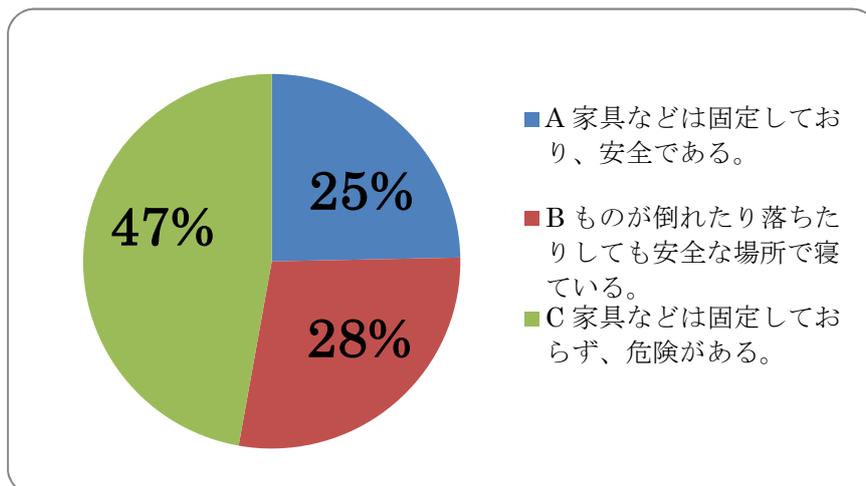
【実施校】

No.	実施日時	実施校・参加者	演題・講師
1	8月29日(月) 13:30~14:30	県立佐原高等学校 982名 (全校生徒・地域住民)	「被災地でのボランティア活動」 東京災害ボランティアネットワーク事務局長 福田信章 氏
2	9月2日(金) 9:00~10:30	県立関宿高等学校 310名 (全校生徒・地域住民)	「地震発生時、また高校が避難所になった時に注意すべきこと」 東京災害ボランティアネットワーク事務局長 福田信章 氏 ※起震車体験を実施
3	10月26日(水) 13:10~14:00	県立東葛飾高等学校 939名 (全校生徒・地域住民)	「高校生ができる防災への取組・心得」 講演及び生徒参加のパネルディスカッション 地震防災アドバイザー 川端信正 氏
4	11月14日(月) 14:30~15:30	県立安房高等学校 812名 (全校生徒・地域住民)	「高校生ができる防災への取組・心得」 防災アドバイザー 矢野良明 氏 ※煙体験ハウスを実施
5	12月16日(金) 17:50~19:20	県立東金高等学校定時制 55名(全校生徒)	「災害への備え、災害に会った時の対処等」 (公財)市民防災研究所 細川顕司 氏 ※起震車体験を実施
6	12月19日(月) 9:00~10:00	県立船橋古和釜高等学校 632名 (全校生徒・地域住民)	「過去の大地震での被災体験と 高校生がやるべき防災への取組・心得」 神戸防災技術者の会 片瀬範雄 氏
7	12月20日(火) 9:00~10:00	県立松戸馬橋高等学校 881名 (全校生徒・地域住民)	「被災体験から学ぶ防災への備えと被災時の対応 について～地震に関連する様々な災害に対して～」 神戸防災技術者の会 片瀬範雄 氏
8	12月21日(水) 10:00~11:30	県立国府台高等学校 916名 (全校生徒・地域住民)	「高校生ができる防災への取組・心得～都市部 で発生する地震災害の特徴とその対策」 (公財)市民防災研究所 細川顕司 氏
9	2月28日(火) 9:10~10:45	県立銚子高等学校 324名 (全校生徒・地域住民)	「過去の大地震での被災体験と、高校生が できる防災への取組・心得」 いいおか津波語り継ぐ会 会長 仲條富夫 氏
10	7月14日(木) 9:00~10:00	流通経済大学 付属柏高等学校 1035名(全校生徒)	「学校でできる防災への取組と被災した時の 高校及び高校生としての役割について」 地震防災アドバイザー 川端信正 氏
11	9月9日(金) 13:30~14:30	東海大学付属 市原望洋高等学校 976名(全校生徒)	「災害時の決断～クロスロードゲーム～」 災害救援ボランティア推進委員会 天寺 純香 氏
12	12月12日(月) 13:30~14:30	県立市原特別支援学校 つるまい風の丘分校 160名(高等部生徒・地域住民)	「もし大きな災害にあったら・・・どうする？ を考えよう」 NPO 法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野愛 氏

2. アンケート結果

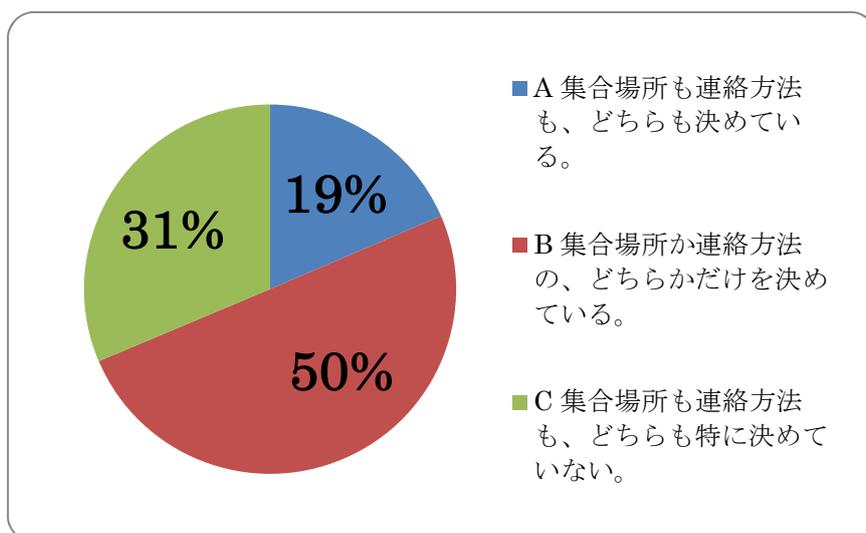
「高校生等防災教育基礎講座」の参加者に対して、日常からの防災対策及び東日本大震災後の災害に対する意識を問うアンケートを実施しました（特別支援学校を除く）。

- (1) あなたの家庭では、寝ているときに地震が起こった場合、体の上にもものが倒れてきたり落ちてきたりする危険はありますか？



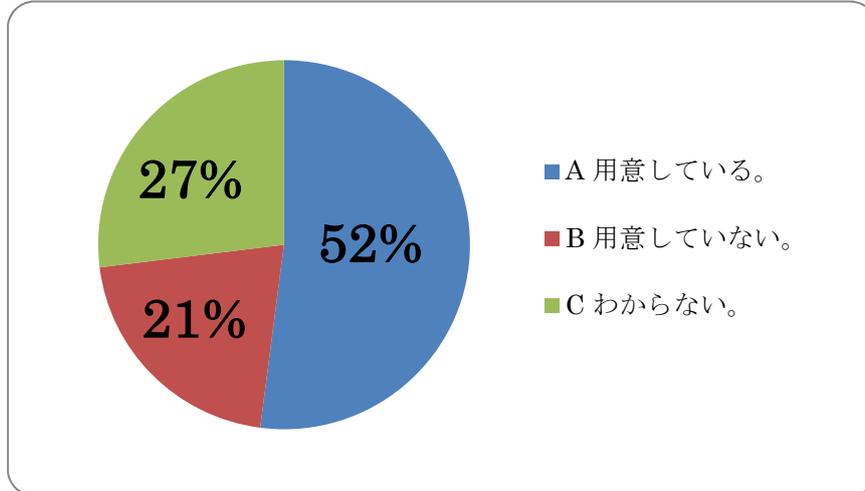
- (2) 東日本大震災の起きた当日は、各交通機関が止まり、遠くから通学している人は帰宅が困難になりました。また、電話も通話が集中し、つながらなくなりました。

家族と離れている時に災害が起きた場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？

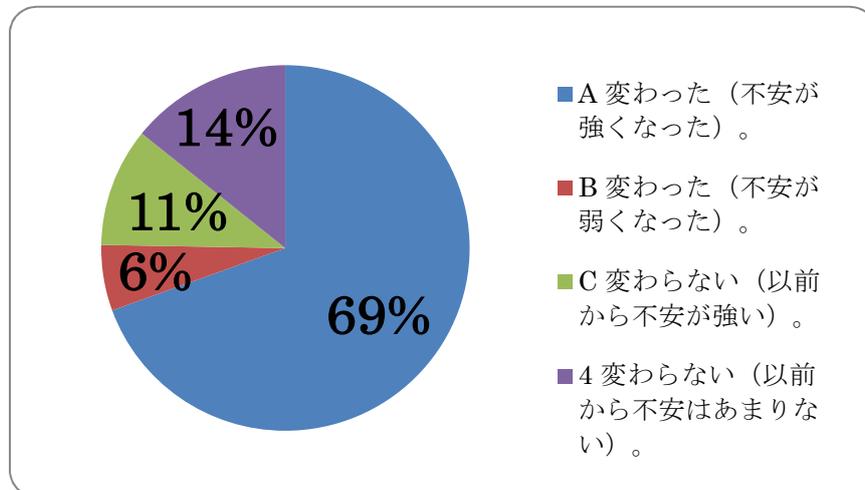


(3) 東日本大震災のように、大災害時にあなたの家庭が被災すると同様に、自治体なども被災し、すぐには公的機関からの救援が望めない場合があります。

あなたの家庭では、災害に備えて水や食料などの非常品を用意していますか？



(4) あなたは、東日本大震災が起きる前・後をくらべ、大地震や風水害に対する気持ちに変化がありましたか。



(5) 本日の講座についての感想や、東日本大震災後にあなたが感じたことを書いてください（主な回答）。

- ・地震の怖さをより一層認識した。一人ひとりの心がけで被害の度合いが大きく変化することに気付いたので、家族としっかり話し合い、整えたい。
- ・東日本大震災から6年たった今でも様々なボランティアがされてるということがわかりました。避難している方々の小さな声を聞き逃がさず、少しでも日常に近づけようとしてすごいと思いました。

- ・私と同じ位の年齢の女の人の話が特に印象に残っています。家族や友人を大切にしようと思った。
- ・実際の被災した方のメッセージを聞いたとき涙が出そうになりました。何か力になりたいと思った。
- ・お母さんを亡くした中学生の話を聞いて、当たり前生活を大事にしたいと思った。
- ・東日本大地震の被災者の方のために何ができるかを考えたい。
- ・海の近くに家があるので、津波のことをもっと深く考えなければならぬと思った。災害に備えて、水や食料などを準備した方が良かったと思った。
- ・震度7の映像が強く印象に残った。津波などの中に瓦や瓦礫があるとは思わなかったので、とても怖いと感じた。災害時の対策は日頃から大事だと思った。
- ・ディスカッション形式で内容がはつきりしていたので普通の講演よりも聞きやすく理解が深まった。
- ・私たちには「自分たちは大丈夫だろう」という思い込みがあることをはつきりと自覚できた今回を機に、様々な災害への備えをしっかりとしていきたいと思いました。
- ・煙体験に参加し、無害な煙だからよかったものの前がなにも見えず息苦しさを感じ有害な煙だったら死んでいたとおそろしかった。
- ・津波のメカニズムが特に印象に残りました。いきなり高い波がやってくると思っていたので驚きました。第一波だけが強いわけではないと知ることができて良かったです。
- ・東日本大震災の被災地を3回訪れたのですが、まだ復興は終わってないです。同じようなことが二度と繰り返されないように、普段から災害への意識を高めていこうと思いました。
- ・「今まで起こったことがないから怖かった」ではなく、「準備していたから初めてでも無事避難できた」と言えるようにしたい。
- ・災害時に家族同士で、連絡を取り合う方法を考えようと思いました。
- ・家具の固定はしていないので、する必要を感じました。本日の話を母にもして、もっと災害時のことを考え、決めておいたほうがよいと思いました。
- ・自分たち若い世代が自覚をもって行動することが大切なんだと思いました。
- ・普段は話されることのない災害の真相や正しい知識を学ぶことができました。他人任せにせず自分自身で生きるために行動することが大切だと学びました。
- ・常に最悪の状況を想定して行動するべきで、仲條さんの「想定外ではなく様々なことも想定すべきだ」というのは本当にその通りだなと感じた。